

### 基本情報



【年 齢】  
36歳  
【出身地】  
東京都練馬区  
【転出元】  
東京都福生市  
【前 職】  
教職員(特別支援学校)  
【活動時期】  
R3.4～R6.3

### 協力隊に応募したきっかけ

前々から自然が豊かな地域の暮らしに興味があり、檜原村には何度か足を運んでいました。その中で、出会った地域の方の温かさを感じました。

新型コロナウイルスの影響を受けて、前職の職場や日々の暮らしで思うような活動ができない事態に直面しました。その際に、自分の将来や本当やりたいことを考える中で「新しいことにチャレンジするなら今だ!」と決意し、檜原村の地域おこし協力隊に応募しました。

### 今後の抱負・任期後の目標

任期後は檜原村の環境を活かし、自然と人々と繋ぐ活動をしていきたいと考えています。村内で活動するNPOで活動していく傍ら、自身でも「ひのはらサステナブル」として資源を活用しながらイベントやワークショップを企画していく予定です。

門松の作成をきっかけに、竹の活用に興味をもち、現在、竹の特徴や竹細工を学んでいます。昔から生活のあらゆる場面に竹が活用されてきました。成長が早い竹は、持続可能な暮らしの中で資源の1つになると考えています。

### 活動内容

#### ●空き家の現地調査

村内の空き家の現地調査で、家屋の状況(外観)、接道状況、手入れの状況等を確認しています。空き家の所有者に対してアンケートを実施し、今後の空き家の意向を伺い、適切な管理を促すとともに、利活用の事例紹介や空き家の登録に関する補助金等を案内しています。



#### ●物産展・地域交流等イベント

新型コロナの影響を受けて中止となっていたイベントも、2年目から徐々に再開されてきました。

村外のイベントでは、地域おこし協力隊として檜原村に移住して感じた、村の魅力や特産品を通じて、檜原村と村外の地域を繋げられるよう、PR活動をしています。



#### ●資源の利活用と継承

長年にわたり門松を作ってきた方に教えていただきながら、門松作りを行いました。村内で材料を調達し、活動の合間を縫いながら、およそ一ヶ月をかけて作成しました。教えていただいた方の言葉に「準備が8割」というものがあり、表面からは見えない準備が大切であることを学びました。



### 連絡先

【メディア等の取材連絡先】  
(メールアドレス) muradukuri@vill.hinohara.tokyo.jp  
(電話番号) 042-519-9556

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】  
(檜原村地域おこし協力隊Facebook)  
<https://www.facebook.com/hinohara.chioko.tokyo/>